

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点
 「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2020 年度 国際共同研究成果報告書〔研究設備・資源活用型〕

2021 年 5 月 9 日 提出

1. 研究課題名	
インド国立サラール・ジャング博物館所蔵日本美術デジタル・アーカイブ (英文課題名: Digital Archive Project of Japanese Arts in the Collection of Salar Jung Museum, Hyderabad, India)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな) まえざき しんや	所属機関・職名
〔日本語〕 前崎 信也 〔ローマ字〕 Shinya Maezaki	〔日本語〕 京都女子大学・准教授 〔英語〕 Associate Professor, Kyoto Women's University
3. 研究分担者 (合計: 名)	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
Shyam Arun (シヤム・アレン)	The English and Foreign Languages University, Assistant Professor
Tariq Sheikh (タリク・シェイク)	The English and Foreign Languages University, Assistant Professor
渡辺 芳郎 (わたなべよしろう)	鹿児島大学 法文教育学域法文学系 教授
森野 彰人 (もりのあきと)	京都市立芸術大学美術学部工芸科(陶磁器専攻) 教授
松原 史 (まつばらふみ)	北野天満宮北野文化研究所・室長兼宝物殿学芸員
阿部 亜紀 (あべあき)	京都女子大学大学院家政学研究科生活環境学専攻生活造形学領域博士後期課程・福田美術館学芸員

4. 研究課題の概要(300 字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)
<p>ハイデラバード英語外国語大学と共同でサラール・ジャング博物館が所蔵する日本美術品 2,144 点の悉皆調査、及びデジタル・アーカイブ化を行う。同館はインドに 3 館ある国立博物館のひとつであり、ニザーム藩王国に仕えたサラール・ジャング家のサラール・ジャング三世(1889-1949)が収集した美術コレクションが基礎となっている。2019 年に実施した事前調査の結果、日本美術コレクションに対しての本格的な調査が行われたことがないこと、20 世紀前半に収集された工芸品を中心に多くの優品が含まれていることが明らかとなった。インドにおける日本文化研究は今後の発展が期待される分野であり、博物館、及び英語外国語大学と協力してコレクションを発信・活用する。(302 文字)</p>

5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

本研究の基本は日本の近代工芸の専門家がインドの都市ハイデラバードにあるインド国立サラール・ジャング博物館を訪れ、作品を調査するとともに、所蔵作品の撮影を行うというものであった。しかしながら、コロナ禍によって、日本からインドへの渡航が困難となった。そこで研究代表者と分担者で7月13日にミーティングを行い8月に予定していたインド調査を中止した。その後、研究を1年間延期し、研究費も使用せず2021年度に繰り越すこととした。

2019年に、研究代表者が博物館の事前調査を行い数百点の作品の写真を撮影していた。その画像を元に1月7日に研究会を開催した。研究会のプログラムは以下のとおり。

1. 研究発表 松原史 「サラール・ジャング博物館の刺繍作品の位置付けに関して」
2. 研究発表 渡辺芳郎 「サラール・ジャング博物館所蔵の SATSUMA について」
3. 研究発表 前崎信也 「サラール・ジャング博物館所蔵の錦光山作品について」
4. 研究発表 Arun Shyam 「サラール・ジャング博物館日本館に関する資料調査の進捗状況の報告」

いずれの発表でも、サラール・ジャング博物館所蔵作品の質の高さを指摘し、多くの作品の制作された年代は19世紀後半から20世紀前半であると推定するにいたった。しかし、館に作品収蔵に関する資料が残っていないため、これ以上の研究については実際にコレクションを調査する必要性を確認した。

6. 研究業績 (日本語以外に英語名称もあるものは、できるだけ日英両言語でご記入ください)

(1) 著書

- ・前崎信也『アートがわかると世の中が見えてくる』単著、2021年2月、IBCパブリッシング、全208頁
- ・前崎信也・山本真紗子編著『Made in Japan: 日本の匠』共著、2020年7月、IBCパブリッシング、全160頁
- ・松原史『刺繍の近代—輸出刺繍の文明交流史』単著、2020年3月、思文閣出版、全402頁
- ・渡辺芳郎編著『近世国家境界域「四つの口」における物資流通の比較考古学的研究』2016～2020年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書(課題番号:16H03510)、2021年3月、全166頁 鹿児島大学法文学部
- ・長野陽介・本田道輝・渡辺芳郎編著『史跡 旧集成館—平成8年度・平成30年度史跡旧集成館確認発掘調査報告書—』鹿児島市重要産業遺跡関係調査報告書(6) 2020年6月、全180頁、鹿児島市教育委員会

(2) 論文

- ・阿部亜紀「白瀧幾之助写真群」について—近代洋画家の軌跡—」単著、2021年2月、京都女子大学生生活造形学科『生活造形』第66号、p.46-51、査読無
- ・前崎信也「京焼のオーラル・ヒストリー —清水卯一が語った五条坂の記憶—」共著、2021年3月、京都市立芸術大学芸術資源研究センター・『COMPOST』2号、共著者:清水愛子、猪飼祐一、106-130、査読無
- ・前崎信也、阿部亜紀「甲斐虎山と京都女子大学—大学所蔵の作品を中心に—」共著、2021年2月、京都女子大学生生活造形学科・『生活造形』66号、共著者:村田隆志、北山明乃、52-58、査読無
- ・渡辺芳郎「政治的アイテムとしての近世陶磁器の生産と流通—薩摩藩を中心に—」『鹿大史学』68号、pp.1-9、2021年3月、鹿大史学会、査読無
- ・Aryu Shyam, “Japanese Artefacts in the Eastern Block of the Salar Jung Museum”, George, P.A. eds., *Japanese Studies in South Asia: New Horizons*, Jan 2021, New Delhi, p.63-71, 査読無
- ・WATANABE, Yoshiro, “SATSUMA from the Musée Ariana”, *Chrysanthemums, Dragons and Samurai*, Jan 2021, Musée Ariana, Geneva, pp.101 – 115, 査読無

(3) 研究発表等

- ・阿部亜紀「永井荷風著『ふらんす物語』と白瀧幾之助の関係—「再会」の章を中心に—」2020年10月3日、日本伝統文化学会第6回研究発表会、京都経済センター、査読有
- ・前崎信也「サラール・ジャング博物館所蔵の錦光山作品について」インド国立サラール・ジャング博物館所蔵日本美術デジタル・アーカイブ研究会、Online、2021年1月7日、7名、立命館大学アート・リサーチセンター「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際共同研究拠点」
- ・松原史「サラール・ジャング博物館の刺繍作品の位置付けに関して」、インド国立サラール・ジャング博物館所蔵日本美術デジタル・アーカイブ研究会、Online、2021年1月7日、7名、立命館大学アート・リサーチセ

ンター「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際共同研究拠点」

・渡辺芳郎「サラール・ジャング博物館所蔵の SATSUMA について」、インド国立サラール・ジャング博物館所蔵日本美術デジタル・アーカイブ研究会、Online、2021年1月7日、7名、立命館大学アート・リサーチセンター「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際共同研究拠点」

・Arun Sham「サラール・ジャング博物館日本館に関する資料調査の進捗状況の報告」、インド国立サラール・ジャング博物館所蔵日本美術デジタル・アーカイブ研究会、Online、2021年1月7日、7名、立命館大学アート・リサーチセンター「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際共同研究拠点」

(4) 主催したシンポジウム・研究会等

・前崎信也「インド国立サラール・ジャング博物館所蔵日本美術デジタル・アーカイブ研究会」、Online、2021年1月7日、7名、立命館大学アート・リサーチセンター「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際共同研究拠点」

・前崎信也「富本憲吉『わが陶器作り』シンポジウム」、京都市立芸術大学芸術資源研究センター、2020年11月29日、30名

(5) その他研究活動(報道発表や講演会等)

・ウェブマガジン、前崎信也「工芸のこれまで、今、そしてこれから」前編、B-OWNED Magazine、2021年3月31日

・公開講座、前崎信也「文化とは何だろう 伝統文化の役割と未来」、令和2年度第2回公益社団法人京都染織文化教会セミナー、2021年3月15日

・新聞報道、前崎信也「悲運の画家たち展 鼎談下」『京都新聞』2020年12月19日

・新聞報道、前崎信也「悲運の画家たち展 鼎談上」『京都新聞』2020年12月12日

・展覧会監修、前崎信也「京都女子大学創基100周年記念展『南画家 甲斐虎山の芸術』展、京都女子学園建学記念館「錦華殿」、2020年12月11日～2021年1月11日

・その他執筆：渡辺芳郎「南九州から奄美群島の貿易陶磁」の開催について『貿易陶磁研究』40、pp.1-2、2020年9月

・その他執筆：渡辺芳郎「政治的な意味を持つ陶磁器」高宮広土・山本宗立編『魅惑の島々、奄美群島一歴史・文化編一』島嶼研ブックレットNo.15、pp.27-29、2021年3月、北斗書房

・報告書：渡辺芳郎「2020年度指宿市山川鰻窯跡の発掘調査」『令和2年度「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」報告書』pp.22-29、2021年3月、鹿児島大学法文学部

(6) 受賞学術賞

(7) 科学研究費助成事業

・「京都の伝統的美術工芸の近代化に関する総合的研究」、基盤研究(B)、2020年4月～2023年3月、(分担：前崎信也)

・「近世国家境界域「四つの口」における物資流通の比較考古学的研究」、基盤研究(B)、2016年4月～2021年3月(研究代表：渡辺芳郎)

・

(8) 競争的資金等(科研費を除く)

・「インド国立サラール・ジャング博物館所蔵日本美術デジタル・アーカイブ」立命館大学アート・リサーチセンター日本文化資源デジタル・アーカイブ国際共同研究拠点2020年度国際共同研究、2020年4月～2022年3月(研究代表：前崎信也)

(9) その他